

## 第2 【事業の状況】

### 1 【生産、受注及び販売の状況】

生産、受注及び販売の状況につきましては、以下のとおり事業部門別に記載しております。

なお、当社では第2四半期会計期間は年賀状印刷の集中及び商業印刷の年末年始商戦の折込広告の大量受注により、売上が他の四半期会計期間に比べ高くなるという季節的変動があります。

#### (1) 生産実績

当第2四半期会計期間における生産実績を事業部門別に示すと、次のとおりであります。

事業部門別の名称	生産高(千円)
商業印刷事業	1,637,735
年賀状印刷事業	2,044,912
合計	3,682,647

- (注) 1. 事業部門間取引については、相殺消去しております。  
2. 金額は、販売価格によっております。  
3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

#### (2) 受注実績

当第2四半期会計期間における受注実績を事業部門別に示すと、次のとおりであります。

事業部門別の名称	受注高(千円)	受注残高(千円)
商業印刷事業	1,481,169	334,802
年賀状印刷事業	1,885,603	0
合計	3,366,772	334,802

- (注) 1. 事業部門間取引については、相殺消去しております。  
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

#### (3) 販売実績

当第2四半期会計期間における販売実績を事業部門別に示すと、次のとおりであります。

事業部門別の名称	内訳	販売高(千円)
商業印刷事業	印刷売上	1,633,166
	折込売上	376,123
	合計	2,009,290
年賀状印刷事業	印刷売上	2,044,912
	折込売上	842
	合計	2,045,754
その他事業	その他売上	26,913
合計		4,081,958

- (注) 1. 事業部門間取引については、相殺消去しております。  
2. 相手別の販売実績が総販売実績の10%以上となる主要な販売先はありません。  
3. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

## 2 【経営上の重要な契約等】

当第2四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

## 3 【財政状態及び経営成績の分析】

### (1) 経営成績の分析

当第2四半期会計期間におけるわが国経済は、米国発の金融危機に端を発した金融不安が世界的規模に拡大しました。急激な円高が輸出企業の収益を圧迫し、製造業を中心とした雇用調整の活発化は個人消費を減退させ景気の先行き不透明感を増長するものとなりました。

また、当社が位置する広告・印刷業界におきましても、印刷用紙等の原材料価格の高騰に加え、企業の広告宣伝費の抑制姿勢が強まる中、同業者間の競争が更に激化しており、引き続き厳しい経営環境が続いております。

このような環境の中、新規営業の強化及び年賀状印刷の受注拡大に取り組んだ結果、当第2四半期会計期間の売上高は4,081百万円となりました。

利益につきましては、原材料価格の高騰及び価格競争が激化する中、内製化による印刷・撮影・制作外注費の抑制とコスト管理の強化を実施した結果、営業利益は950百万円、経常利益は946百万円、四半期純利益は734百万円となりました。

なお、当社では第2四半期会計期間は、年賀状印刷の集中及び商業印刷の年末年始商戦の折込広告の大量受注により、売上・利益共に他の四半期に比べ多くなるという季節的変動があります。

事業の部門別の業績は次のとおりであります。

#### (商業印刷事業)

商業印刷事業につきましては、取引先の広告宣伝費の抑制が続く中で、新規取引の拡大に向けて、付加価値・販促効果の高いサービス・製品の企画・提供を主眼に新規営業を展開してまいりました。その結果、受注は増加し、商業印刷事業の売上高は2,009百万円となりました。

#### (年賀状印刷事業)

年賀状印刷事業におきましては、個人消費低迷の影響により、名入れ年賀状の取扱件数が851千件(前年同期比97.0%)、パック年賀状の取扱件数は166万パック(前年同期比95.5%)と共に前年同期より低下したものの、販売単価の上昇及びポスター、パンフレット等の年賀資材の受注増加により、売上高は2,045百万円となりました。

#### (その他事業)

その他事業につきましては、北海道内の3店舗のプリントハウスにて、DPE、オンデマンドプリント等の商品・サービスの提供を行ってまいりましたが、パソコン・デジタル技術の浸透により経営環境は厳しいものとなっております。こうした中で、個人やSOHO向けサービス強化を継続いたしました。売上高は26百万円となりました。

### (2) 財政状態の分析

当第2四半期会計期間末における総資産は7,622百万円となり、前事業年度末に比べ1,895百万円増加しました。これは主に現金及び預金が553百万円増加、受取手形及び売掛金が693百万円増加、年賀はがき等の立替金が531百万円増加したことによるものであります。

負債合計は5,587百万円となり、前事業年度末に比べ1,628百万円の増加となりました。これは主に支払手形及び買掛金が403百万円増加、短期・長期借入金が925百万円増加したことによるものであります。

純資産合計は2,035百万円となり、前事業年度末に比べ267百万円増加となりました。これは主に利益剰余金が298百万円増加したことによるものであります。

### (3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は1,573百万円となり、第1四半期会計期間末に比べ191百万円の増加となりました。当第2四半期会計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの増減要因は次のとおりであります。

#### (営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は938百万円となりました。これは主に売上債権の増加516百万円、立替金の増加452百万円等により資金が減少したのに対して、税引前四半期純利益970百万円、たな卸資産の減少651百万円、仕入債務の増加139百万円等により資金が増加したことによるものであります。

#### (投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は95百万円となりました。これは主に有形・無形固定資産の取得による支出70百万円等によるものであります。

#### (財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は652百万円となりました。これは長期借入れによる収入400百万円により資金が増加したのに対して、短期借入金の純減額900百万円、長期借入金返済による支出128百万円、配当金の支払い23百万円により資金が減少したことによるものであります。

### (4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期会計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

### (5) 研究開発活動

当社では当第2四半期会計期間における研究開発活動として、味覚センサーを活用したデータ分析をすすめ、味の測定・解析・比較を中心とした研究活動を実施しており、これらは商業印刷事業における販売促進支援活動及び取引先に対する提供情報として活用しております。

以上の活動により、商業印刷事業において、当第2四半期会計期間における研究開発費は2百万円となりました。なお、年賀状印刷事業及びその他事業においては特記すべき事項はありません。